私学助成署名推進ニュース

発行：全国私学助成をすすめる会　（事務局：全国私教連）

No.20　2025年9月4日（木）

熊本で６月と７月に学習会が開催されました。「毎年同じことをやっていては参加が増えない。しかも情勢も世論も放置できない。いま何が必要か」と真剣な討議を重ねて行きついた企画は、多くの父母・生徒が参加する有意義な集会になりました。

熊本私学助成をすすめる会ニュース

二〇二五年度　第一号

二〇二五年八月末日発行

私学助成の拡充を目指して　父母のつどい、学費無償シンポジウムを開催

くまもと私学父母のつどい2025

熊本私学助成をすすめる会では、次年度（２０２６年度）における私学助成の拡充を目指して、二つの行事を開催しました。

６月２１日（土）には「くまもと私学父母のつどい２０２５」を、九州学院高校で開催しました。署名数増加の原動力となる父母に私学助成の重要性を知ってもらうことや、父母同士の結びつきを強くするための会ですが、今回はこれまでと違うものにしようと、福井県から奥出雅文先生（仁愛女子高校教諭）を講師にお招きし、福井県での活動について学ぶことにしました。

当日は父母１７名、生徒１６名、教員１５名（講師含む）の合計４８名が参加し、例年にない盛況な会になりました。当初は父母と教員だけの会を予定していましたが、奥出先生の提案により生徒にも参加を呼びかけることにしました。生徒の参加で活気ある会になり、また福井の活動の広がりが生徒から父母への連鎖によるものであったという講演の内容につながる部分もあって、結果的に生徒の参加は大成功でした。

父母の内訳としては中心となる九州学院と熊本中央高校に加え、未加盟校である熊本学園大学付属高校の保護者会も参加しました。この広がりは、九州学院保護者会の河井直子さんの尽力によって実現したもので、河井さんがすすめる会の活動に共感し、昨年（２４年）１２月の院内集会に参加されたことがきっかけです。その後様々な行事に参加されたことで、県内他校の父母や全国の父母とのつながりができ、私学助成拡充、父母のつながりの強化への思いがさらに強くなった結果と言えます。

参加された方々からは「子どもと一緒に参加すればよかったと思いました。社会の問題を自分事のように、我が子のことと思うと差別はないということを学びました」「娘から今回のつどいを聞き、〝私はこれから生徒会に入ってもっと良い学校にしたいと思っている。だから一緒に私学の現状を知ってほしい〟と言われました。娘のお陰で学ぶよい機会になりました」などの感想をいただきました。その後の懇親会も大いに盛り上がり、今後の発展が感じられる会となりました。

学費無償を考えるシンポジウム

７月１９日（土）には「学費無償を考えるシンポジウム」を、熊本城ホール会議室にて開催しました。これまでは毎年「署名スタート集会」として実施してきましたが、署名に対する意識の低下からか、参加者が少なくなっていたのが現状です。また、今年２月の３党合意により「私学の学費無償」が大きく前進することになりましたが、学費負担が軽減されると喜ぶ声がある一方、否定的な意見も聞かれるようになり、世間の評価は賛否に分かれてしまいました。このような状況を放置しておけば、よりよい社会を目指す私たちの運動が、逆に分断を生みかねないという懸念もあり、私たちの真の思いを社会に発信し、今起きかけている分断をもう一度つなぎ直す場を創出することが大切だと考え、このシンポジウムを開催することにしました。

山口直之全国私学助成をすすめる会共同代表を講師に「学校での『学び』と私学助成運動」という演題で基調講演を、また「子どもの未来と学費無償」というタイトルでパネルディスカッションを行いました。

当日は、父母１２名、生徒２８名、教員１４名、その他一般８名（講師含む）、合計６２名が参加しました。パネルディスカッションのパネラーとして、教員、父母に参加していただきましたが、中でも公立高校の立場から吉田真一先生に参加していただきました。吉田先生は公立の教員でありながら、学校を飛び越えた活動を企画し、生徒たちに様々な体験をさせておられます。先生は「高校生は失敗ができるから、大人になる段階として大いに失敗してほしい。その仕掛けをするのが大人の仕事」と話されました。

最後のフロア発言では、自分が通う学校に対する不満を語る生徒もいましたが、普段の学校生活の中ではそのような声を上げる場はないとのことでした。今回のシンポジウムを通して、自由で多様な学びを保障するためには、体験を通した学びと、自由に発言する場、それぞれの意見を尊重する雰囲気が必要だということが分かりました。そのためには学費の心配をせず学校に通える環境を整えることが重要であるということが、参加した父母、生徒、教員それぞれの言葉から確認されました。

生徒「活動通じ成長」

私立高学費無償化へシンポ

熊本

パネリスト（左側・正面）の経験を聞く高校生＝19日、熊本市

私立高校の「学費無償を考えるシンポジウム」が19日、熊本市で開かれました。自由で多様な学びの保障を

2025年7月26日付

しんぶん赤旗

と「熊本私学助成をすすめる会」（竹原一輝会長）が主催したもの。公立私立の垣根を越え、市民も交えて「学び」の視点にたった学費無償について一緒に考えようと高校生や保護者、教員ら60人が参加しました。

「全国私学助成をすすめる会」の山口直之共同代表が基調講演し、学校での「学び」とは、環境を整えて実現していくことだと述べました。

パネルディスカッションでは、保護者や現役教師らが発言。熊本中央高校後援会の森裕智会長は「なりたいもの、やりたいことなどを紹介しました。

参加した女子高校生は「私学助成署名などの活動を通して交流が広がり、ともに取り組んだ先生たちからも刺激を受けて成長できた」と話しました。